

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（令和6年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>〔意見〕</p> <p>LP 出資に加えて、さらにスタートアップを促進させる取り組みはあるか。</p> <p style="text-align: right;">（令和6年6月20日 経営協議会）</p>	<p>令和6年7月より、千葉大学におけるスタートアップ創出を支える環境整備の一環として、<u>千葉大学 IMO スタートアップ・ラボ内に、事業化支援人材（URA）4名および客員起業家（EIR）4名からなる起業支援体制を新たに構築した。</u>さらに、<u>外部有識者6名により構成される「Business&Technology Advisor」制度を新設し、研究成果の事業化に向けた多角的な支援体制を整備した。</u>これにより、スタートアップ創出に不可欠な人的リソースのインフラ強化を着実に推進した。また、<u>千葉県商工労働部、日本政策金融公庫、カナダ・トロントメトロポリタン大学など、複数機関と新たにスタートアップ支援/アントレプレナーシップ教育に関する連携体制を構築（覚書締結等）し、これらの産官学のネットワーク強化により、地域のイノベーション・エコシステムの形成を推進している。</u></p> <p>さらに、<u>スタートアップ創出の主体者であるアントレプレナー育成の裾野拡大を目指し、令和7年4月に「アントレプレナーシップセンター」を設置した。</u>全学のアントレプレナーシップ教育を一体的にマネジメントするとともに、総合知に基づくアントレプレナーシップを涵養する教育を実現し、グローバル・アントレプレナー人材を育成することを目的としている。本センターの取組は、会社を創る、いわゆる起業家を育てる教育に限定されるものではないが、課題を発見し自ら解決に向かって挑戦する能力や、他者と協働して解決策を探求していく能力を涵養していくことから、その能力を発揮するフィールドとして、起業する学生も増えることも想定している（KPIとして「学生による起業数 5人/年」を目標値として設定）。本センターでは、総合知に基づく、アントレプレナーシップを涵養する教育を実現し、深い教養に基づく適切な課題設定、またその課題に果敢に挑戦できる自立したグローバル・アントレプレナー人材の養成を目指して活動を加速させている。</p>

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（令和6年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>〔意見〕</p> <p>DEIBの推進にあたっては、大学の価値観に基づき、皆が実行可能なアクションプランを考えていくと、より実行しやすいのではないかと。</p> <p style="text-align: right;">（令和6年9月19日 経営協議会）</p>	<p><u>Diversity</u>（多様性）、<u>Equity</u>（公正性）、<u>Inclusion</u>（包摂性）、<u>Belonging</u>（帰属感）を大切にしたい大学コミュニティの形成と発展を実現するため、令和7年度のアクションプランとして、<u>性の多様性に関する正しい知識や理解増進のための研修開催や啓発活動に加え、SOGI</u>（<u>S</u>exual <u>O</u>rientation & <u>G</u>ender <u>I</u>dentify）等ガイドラインの作成を推進する。これらのガイドライン作成や具体的な取組実践には、学内の学生や教職員を対象とした意見聴取等をもとに、当事者のニーズや困りごとを捉えながら行うことを目指す。</p>
<p>〔意見〕</p> <p>奨学金を優秀な学生に支給して留学する学生を増やすことが非常に大事だと思う。一般的な予算の中ではなく、例えば、留学する学生を増やす名目で寄付を募る等は考えていないのか。</p> <p style="text-align: right;">（令和7年1月16日 経営協議会）</p>	<p><u>長期・高度な海外留学を希望する学部学生及び大学院生学生に対し、留学支援のための奨学金を給付する「千葉大学高度留学支援奨学金」を令和7年度に新設した。</u></p> <p>本奨学金は、国際教育センターの専門委員会での選考等を経て経済的に困窮しながらも長期・高度な留学を志す学生に対し支給し、交換留学又は研究留学派遣の増加を図るものであり、千葉大学基金の修学支援基金を通じて、本奨学金の募集活動を行っている。</p>